

東浦町校務 DX 計画

GIGA スクール構想が目指す学びの未来の相似系としての校務 DX を実践し、ライフスタイルに応じた働き方改革、校務系と学習系のデータ連携、災害時のレジリエンスを踏まえた次世代校務 DX を目指します。

GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリストの結果より

文部科学省が取りまとめている「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検の結果(学校向け)については、以下のとおりです。

| No. | チェックリスト項目 | 基準 | 本町結果(%) | 全国平均(%) |
|-----|---|-----------------------|---------|---------|
| 1 | 児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付け、学校内で集計していますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 90.0 | 75.5 |
| 2 | 業務時間外の保護者からの問い合わせや連絡事項について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付ける体制を整えていますか。 | 整えていると回答した学校の割合 | 40.0 | 27.9 |
| 3 | 学校から保護者へ発信するお便り・配布物をクラウドサービスを用いて一斉配信していますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 90.0 | 48.9 |
| 4 | 保護者から学校への提出資料をクラウドサービスを用い、受け付けていますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 10.0 | 13.6 |
| 5 | 保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 90.0 | 60.6 |
| 6 | 保護者との日程調整をクラウドサービスを用いて行っていますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 10.0 | 12.7 |
| 7 | 学校説明会や保護者面談などにオンライン形式を取り入れていますか。 | 半分以上取り入れていると回答した学校の割合 | 10.0 | 4.7 |
| 8 | 学校徴収金について、現金徴収ではなく、口座振替、インターネットバンキング等を活用して徴収金の徴収を行っていますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 90.0 | 76.8 |
| 9 | 児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、家庭で利用できるようにしていますか。 | 毎日持ち帰っていると回答した学校の割合 | 10.0 | 39.1 |
| 10 | 児童生徒への各種連絡をクラウドサービスを用いて配信していますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 10.0 | 28.2 |
| 11 | 児童生徒への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 50.0 | 54.0 |
| 12 | 宿題(学期中のもの)をクラウドサービスやデジタルドリル教材を用いて実施・採点していますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 0.0 | 18.0 |

| No. | チェックリスト項目 | 基準 | 本町結果(%) | 全国平均(%) |
|-----|---|-----------------------|---------|---------|
| 13 | 宿題（長期休暇中）をクラウドサービスやデジタルドリル教材を用いて実施・採点していますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 0.0 | 17.1 |
| 14 | クラウドサービスを活用し、授業中の小テスト等にCBTを取り入れていますか。 | 取り入れていると回答した学校の割合 | 30.0 | 36.5 |
| 15 | 職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化していますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 60.0 | 76.5 |
| 16 | 職員会議等における検討事項について、クラウドサービスを用いて事前に情報共有し、あらかじめ意見を求めていますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 30.0 | 29.3 |
| 17 | 職員会議等をハイブリッド（対面・オンライン）で実施していますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 10.0 | 3.1 |
| 18 | 教職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れていますか。 | 取り入れていると回答した学校の割合 | 50.0 | 77.0 |
| 19 | 学校内外の行事日程、施設や特別教室の利用予約等について、クラウドサービスを使って共有し、いつでも確認できるようにしていますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 80.0 | 31.8 |
| 20 | 教職員が作成した教材等をクラウド上で共有し活用していますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 30.0 | 39.7 |
| 21 | 授業研究会や校内研修等をハイブリッド（対面・オンライン）で実施していますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 0.0 | 7.2 |
| 22 | 校内研修について、オンデマンド視聴を取り入れていますか。 | 取り入れていると回答した学校の割合 | 30.0 | 45.9 |
| 23 | 授業研究会や校内研修等での協議にクラウドサービスを用いていますか。 | 取り入れていると回答した学校の割合 | 30.0 | 45.9 |
| 24 | 教職員への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 50.0 | 66.5 |
| 25 | 教職員から学校へ提出する事務手続き資料をクラウドサービスを用い、受け付けていますか。 | 半分以上受け付けていると回答した学校の割合 | 0.0 | 24.1 |
| 26 | 学校から教職員に紙で提出を求めている書類はありますか。 | ないと回答した学校の割合 | 10.0 | 4.7 |
| 27 | 長期休暇期間（夏休み等）の教職員の動静調査をクラウドサービスを用いて実施・管理していますか。 | 用いていると回答した学校の割合 | 10.0 | 36.1 |
| 28 | 教職員は校務用の個人メールアドレスが付与され、それを業務で利用していますか。 | 付与されていると回答した学校の割合 | 80.0 | 82.2 |
| 29 | 「FAXの利用が例外的に必要と考えられる業務」以外の日常の業務にFAXを使用していますか。 | 使用していないと回答した学校の割合 | 10.0 | 22.9 |

| No. | チェックリスト項目 | 基準 | 本町結果(%) | 全国平均(%) |
|-----|--|----------------------|---------|---------|
| 30 | 業務で押印が必要な書類はありますか。 | ないと回答した学校の割合 | 30.0 | 7.3 |
| 31 | 校務支援システムへ新入学児童生徒の名簿情報を登録する際の主な入力方法を教えてください。 | / | | |
| 32 | 1人1台端末のパスワードについて、教職員が把握し一括で管理するのではなく、児童生徒に管理を任せていますか。 | 児童生徒に任せていると回答した学校の割合 | 40.0 | 40.5 |
| 33 | 学級・学校経営に有効な教育データ等が、必要な職位に応じてアクセス権限が設定されるときともに、活用しやすいように整理され、閲覧できますか。 | できると回答した学校の割合 | 100.0 | 83.4 |
| 34 | 「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」に基づき生成 AI を校務で活用していますか。 | 半分以上していると回答した学校の割合 | 0.0 | 2.6 |

(文部科学省「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト～学校・学校設置者の自己点検結果(令和6年11月時点)～〔速報値〕(令和6年12月26日公表))

以上の結果より、教職員と保護者間の連絡のデジタル化においては全国平均を上回っているものが多いが、教職員と児童生徒間の連絡等のデジタル化、学校内の連絡のデジタル化は全国に比べて低い水準にあることが分かります。校務 DX を促進するため、リーディング DX スクールの実践例等を参考に、クラウドツールの利活用を基盤とした取り組みを重点的に進めていきます。

教育 DX に係る当面の KPI

令和5年12月に文部科学省が取りまとめた、令和8年度までに達成すべき KPI (校務 DX に係るもの) の達成状況については以下のとおりです。

| KPI の観点 | 達成状況(%) | 目標 (%) (目標達成年度) |
|---|-------------------|--------------------|
| クラウド環境を活用した校務 DX を積極的に推進している学校 (※) | 61.25 | 100 (R8) |
| FAX でのやり取り・押印を原則廃止した学校 | 20 | 100 (R7) |
| 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業を一扫した学校 (町内での進学、異動に限る。) | 100 | 100 (R7) |
| 生成 AI を校務で活用する学校 | 0 | 50 (R7) |
| 次世代の校務システムの導入に向けた検討を行う自治体 | 100 (検討しているため) | 100 (R8) |

※児童生徒・保護者との欠席、遅刻、早退連絡や各種連絡、調査、アンケート、校内での情報共有や資料共有、調査、アンケートについてクラウドサービスを積極的に取り入れている学校
(文部科学省「校務 DX の取組に関するダッシュボード」(令和6年11月時点)(令和6年12月26日更新))

以上の結果より、上記「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に挙げられている項目に積極的に取り組むとともに、FAXでのやり取りや押印の見直しを行い、生成AIの業務での活用を促進します。

1. クラウドツールの利活用の推進

令和6年度、先生1人1人にメールアドレスを付与し、全ての先生が個人で外部と連絡できるようになりました。また、先生同士でのチャット機能の利用を開始し、職場のコミュニケーションの活性化に役立てていきます。職員室以外の場所からアクセス可能なクラウド環境の利点を活かし、業務フローの見直しや、校務支援システムの機能との整理を行います。また、学校-教育委員会間で行われる文書授受や事務手続きで、クラウドツールを利用し、先生の負担を減らします。

会議資料のペーパーレス化や研究授業や研修資料等の情報交換のためのファイル共有を実施し、タイムフリーな共同編集やコメントを使った意見集約等で円滑な学校運営を推進します。

2. CBTの活用と学習シートのデジタル化

令和7年度には全中学校に自動採点システムを導入し、採点や集計に係る業務の効率化を行いました。

現在、小テスト等にCBTを取り入れている学校は3割にとどまっており、利用が進んでいません。各校の、CBTやクラウドツールを利用した小テストの実践事例を紹介したり、学習シートのテンプレートを共有したりすることで、先生の負担軽減及び効率化を図ります。

3. 次世代の校務支援システム導入に向けた検討

ロケーションフリーで校務系・学習系システムへ接続可能な環境を整備し、それぞれの先生のライフスタイルに合わせた柔軟で安全な働き方ができるよう、次世代の校務支援システムの導入のための検討を行います。